

## 多職種研修会に関するアンケート

※該当する項目を■または☑に書き換えて下さい。

1. 来年度の研修会の形式は、どのような形式がよいですか。

- 講演会形式 (1名)  
 グループワーク形式 (3名)  
 どちらも (3名)

2. 規模はどれくらいがよいですか。

- 50名以下  
 50～100名程度 (2名)  
 100～150名程度 (2名)  
 150～200名程度  
 200名以上 (4名)

3. この様な研修会を開催してほしい、といった内容がございましたら、以下に自由にご記載下さい。また、現在開催している研修会についての課題等もございましたら、合わせてご記載お願いいたします。

1) 研修内容に関する意見

\*カッコ内は第1回研修会でのアンケート結果によるカテゴリー

(相互理解)

・相互理解を深めるためにも多職種の方がどのようなことができるのか？研修会

(連携)

・医療に特化した内容、介護に特化した内容ばかりでは参加者全員が情報を共有することは難しい。ここは参加者全員全てが平等になるように、別業種で多職種連携(のようなこと)をしている内容の講義→グループワークというのはいかがでしょう。例えば、建設関係(設計士・現場監督・大工等の連携)、貿易(日本人・外国人の連携)、サッカー(DFとMFの連携)等。多職種研修はあくまで函館市主催。参加の間口を広げる工夫は必要だと考えます。

・病院や施設で働く看護師や介護士は他法人他事業所の多職種と関わる機会が少なく、外との繋がりを持つことに対し消極的なスタッフが多い。このようなスタッフが多職種研修の必要性を感じたり、参加してよかったと思える内容にしなければ、「いつも同じ顔ぶれが集うパターン」に陥ってしまわないだろうか。函館市の連携を強化するために大切なのは、今まで参加しなかった職種を引き込むこと。その為に、研修内容は連携初心者も理解できるものでなければならないと思います。

(在宅ケア)

- ・予算的な問題もあるが、関東の悠翔会理事長の佐々木淳先生を講師として招き、講演会とGWをやってほしい。いろいろな方向から在宅医療を考えている方なので参考になるところも多いと思う。
- ・講演の後に症例検討会を行うのが良いと思う。

(病院機能、医療制度)

- ・医療介護連携がスムーズにいかないケースの中には、やはりネックになっているのが、患者ご家族の認識不足（分からなくても当然）を挙げることができます。未だに「なぜ前と違って病院に長く入院させてもらえないの?」「施設は何でこんなに費用が高くなったの?」って当たり前のように聞いてこられる方が、つい最近もいらっしゃいました。最終的には対応としては個別になってしまいますが、大まかにでも直近の病院施設事情をそれなりにわかって頂く努力も必要かと思えます。是非一般市民に向けた講座を開催して頂きたいと存じます。

2) 研修方法に関する意見

- ・市が主催の研修なので規模が大きくなるのは仕方ない。個人的には大小様々な研修が開催されるのが理想だが、難しいと思うので200名以上を選択。

- ・GWでの顔の見える研修は、今は元々ある研究会や協議会にお任せするのが良いと思う。

- ・座学ではなく参加型。場面をみて、みんなの気づき、発見を共有する。(映像、劇、シミュレーション等)

- ・当協会は会員の会費にて運営しており、予算の使い道が決められている。そのため、研修のアナウンス等は函館市医療・介護連携支援センターの研修予算で運営できないか。

ご協力ありがとうございました。